

はじめに

福井県衛生環境研究センターは、本県の保健行政や環境行政を科学的・技術的に支える中核機関として、衛生・環境に係る「調査研究」、「試験・検査・測定」、「研修・指導・学習」および「情報の収集・解析・提供」の4つの役割を軸に、日々業務に取り組んでいます。

このたび、令和6年度に実施した試験・検査業務の実績および調査研究の成果等を、「福井県衛生環境研究センター年報（第23巻）」としてとりまとめました。

当年度は、令和6年3月に策定した「健康危機対処計画（感染症）」に基づく感染症危機への備えとして、普段は感染症検査に従事しない所内職員を対象とした検査員養成研修（実技）や、健康福祉センターと合同の実践型訓練を初めて実施しました。

また、令和7年3月に改定された県の新型インフルエンザ等対策行動計画において、新たに当所に感染症情報センターを設置することが明記されました。今後、感染症情報の収集分析・提供体制のさらなる充実に努めることとしています。

調査研究においては、Science for Society を念頭にテーマ立案に取り組んでおり、地下水や湖沼水質保全に関する研究課題2題、自然毒など食品衛生に関する研究1題、感染症に関する研究1題を新たに計画しました。研究中の課題も含め、社会に役立つアウトプットを意識して調査研究を進めています。

最後に、現在、当センターではXやnoteなどを利用した情報発信を積極的に進めています。また、環境科学体験教室や夏休み衛生・環境教室など、県民向けの教育活動にも力を入れています。これらの活動に当たっては、分かりやすいこと、伝えるではなく「伝わる」内容であることを心がけて、業務に対する県民の認知度の拡大に努めています。引き続き、御理解と御協力いただくよう何卒お願いいたします。

令和8年2月

福井県衛生環境研究センター所長 村田 健